

## 肥土山農村歌舞伎の舞台「茅葺き屋根の葺き替え作業」



土庄町肥土山の舞台は、茅葺き寄せ棟造りで、現在の舞台は一九〇〇年に立て替えられたものです。しかし、茅葺きの屋根は一九八一年に全面改修を、一九九六年には部分改修を行い、その後老朽化が進んだことから肥土山自治会が六年程前から全面改修を計画し、文化財補助事業として平成二十一年二月に二十八年ぶりの全面改修を行いました。

屋根の広さは四面で計約百六十五平方メートル、茅の直径約二十センチメートルの束で三千束以上が必要で、一昨年から銚子溪上流の蛙子池周辺に自生しているものを刈り取り、旧大鐸小学校などで乾燥し保管していました。途中、千束程が湿気で腐ったため、さらに刈り取る量を増やし用意したといいます。

### 肥土山農村歌舞伎のいわれ

今から三百年程前、肥土山村の農民らは水不足に悩まされ続け、それを見かねた肥土山村庄屋の太田伊左右衛門典徳翁は、三年の歳月と私財を投げ売って、一六八六年銚子溪奥に蛙子池を築造しました。その池の水が肥土山離宮八幡神社の側溝に流れてきたのを見た村人達は喜びのあまり神社の境内に仮小屋を建て、役者一座の芝居を催し池の完成を祝ったのが、肥土山農村歌舞伎の始まりだと言ひ伝えられています。

(香川県小豆総合事務所土地改良課)



毎年5月3日に行われる肥土山農村歌舞伎



蛙子池